

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291100016		
法人名	株式会社ケアサービス・久		
事業所名	グループホーム夕陽の丘		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町岡郷1669番地1		
自己評価作成日	平成29年10月11日	評価結果市町村受理日	平成30年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日の食材20品目を目標に提供しており、裏庭菜園での野菜作り、収穫作業を共に行っています。日常生活では、インターネットやDVDでの昔の映像(歌謡曲や民謡、時代劇)を活用しています。また、レクリエーションでは・介護予防体操・合唱・計算問題・漢字書き取り・しりとり・ビンゴ・トランプ等で五感に刺激を図っております。また、利用者様も十人十色の性格がございますので、口喧嘩も毎日のようにあっておりますが、お互い手を出さない限りスタッフが見守っております。毎日、笑いあり、怒りあり、悲しみありで賑やかな生活を送っております。

※事業所の基本情報は、公誰でも自由に見学を受付けている。推進会議へ参加頂いている、地元民生【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成29年12月22日

介護の経験がある開設者が作成した、利用者への温かい思いの籠った「理念」がすべての支援の中心にある。利用者が何を思いどう暮らしたいかを職員は日々の支援の中から汲み取り、共有し具現化に努めている。在宅時の趣味や家族との繋がりの継続がある。家族会を年数回開催し、電話やメール・ライン等で利用者の状況を伝え喜ばれている。家族の面会の多さや運営推進会議に家族の参加も多く、信頼関係の構築が窺える。事業所は働きやすい職場づくりを目指し、誕生日休暇や連休のある勤務体制、資格取得の援助や懇親会で労う等、職員へのきめ細かい気遣いがある。働きやすい職場はチームワークに繋がり、利用者本位への支援へと連鎖している。献立を利用者と一緒作り、利用者は代表者を「ママさん」と呼び、夕陽に手を合わせ1日が終わる、普通の暮らしがある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホーム夕陽の丘
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関内と、事務所に掲示しており実践できている。	代表が思いを込め、6項目の理念を作成している。職員は理念を日々の生活支援において支援の基本として捉え、支援に迷う時は、理念に戻り、利用者が本位とする生活を笑顔で送れるよう支援に努めている。理念は、玄関、事務所に掲示し職員共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(ちびっこ相撲大会・ペーロン大会協賛・地域花壇植栽)等に参加させてもらっている。また、近所を散歩する際は挨拶を交わし利用者様の顔を少しでも覚えて頂ける様に心掛けている。	事業所として地域ペーロン大会に協賛している。又、地域の花壇植栽に職員と利用者が参加している。近隣児童に、七夕の短冊を配布し飾りつけて貰ったり、ボランティアによる演奏会等訪問者も多い。職員は、利用者との散歩時、努めて住民と挨拶を交わす等、地域の中で暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	誰でも自由に見学を受付けている。推進会議へ参加頂いている、地元民生員さんへも、地域でお困りの方等いらっしゃれば、お気軽にお越しくださいとお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の推進会議開催で活かしている。	規程のメンバーで年6回開催しており、家族に参加してもらい積極的に会議運営に取り組んでいる。近年の事件・事故の社会問題をいち早く課題として取り上げ、メンバーから助言を得ている。今年度、防犯アラームや赤外線ライト設置の反映例があり、意見をサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の連絡協議会に所属しており、GHIに必要な事柄の会議には参加している。	施設長は、更新手続き等で行政窓口を訪問している。その他、防災設備や自然災害について、相談し助言を得ている。また、施設長は、担当課職員に事業所に気軽に立ち寄ってくれるよう依頼している。研修の案内には、参加して協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	職員は、身体拘束廃止推進委員養成研修を受講し、職員間で共有し、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。スピーチロックは管理者が指導し、職員同士でも注意しあっている。日中の施錠は無く、外に出る利用者には職員が付き添っている。グレーゾーンの拘束も家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待、身体拘束関係の研修会に参加しています。事業所内で共有し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を基に、ご理解頂けるまで説明し納得頂けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情受付箱を設置しているが、ご家族が訪問された際に、身体や近況報告を交え会話の機会を確保するよう心掛けている。	苦情の窓口は職員全員とし、苦情処理の手順を職員は理解している。家族会を年1、2回開催し、家族と交流し要望を抽出している。又、遠方の家族の訪問時は希望に沿って宿泊室を準備したり、ラインや電話で利用者の写真を送り、状況を伝え喜ばれている。家族との信頼関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	皆の要望等がある場合は、主任を通じて、または直接言ってこれる雰囲気作りを行っており、反映できていると思います。	業務上の要望や提案などは、主任を窓口とする仕組みがあり、職員は毎月のケアカンファレンス時や日々の業務の中で主任に直接伝え、主任から施設長に伝える仕組みがある。施設長は、誕生日休暇や夜勤明けの連休、資格取得時の試験料の補助など、職員の働きやすい職場環境づくりを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人でのスキルアップの為に研修は要望があれば対応できる体制を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎県グループホーム連絡協議会に所属しており、地域内のグループホーム代表同士の定期的な会食等に参加し勉強会や講演に参加させて頂ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	独自の調査票を基に、ご家族からの聴き取りを行い利用者様へのアプローチを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お話し合いの中で、十分な聞き取りができています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族のような関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設で可能な事、不可能な事を話し合っており、ご家族のご協力も頂きながら、関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人知人の訪問は歓迎している。お墓参りやドライブ時の実家立ち寄りなど、家族の承諾がある場合は行っている。	面会には、家族や親戚、友人や自宅近所の知人などが訪れている。在宅時の趣味の写経や裁縫を続けている利用者、自宅の桜見物や墓参り、孫の誕生会に行く利用者もいる。読書が好きな利用者が、在宅時に読んでいた月刊誌を毎月職員が買ってくるなど馴染みの継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活では様々な利用者間トラブルが発生しますが、食卓席やソファでの孤立を防ぐ為、性格等を考慮した配置に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退所された方のお見舞いを通して、ご家族様の困りごとや相談を受けることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と、ご家族様との意向に食違いが生じた場合を除けば行えている。	職員は、利用者の1日の生活の流れを把握している。本人が何をしてほしいかを常に考え、ゆっくり、ゆったりと目を見て話し、意向の把握に努めている。発語困難や難聴の利用者の表情、しぐさで思いを推察し、家族からも情報を得て、支援に繋げている。新しい情報は、口頭や連絡帳で共有し、介護計画に繋げるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前聴き取り調査内でできている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のペースを把握共有できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の気付き等をケア会議内にて検討し合いプラン作成に努めている。	利用開始前のサマリーを参考に、家族の意向を取り入れ暫定プランを立て、2ヶ月を目途に必要な支援を全職員で検討し、ケアマネージャーが介護計画を作成している。経過を解りやすくする為にABC評価に書式変更している。毎月のケア会議は全職員で検討し、次の計画へ繋げている。介護計画は、本人・家族の承認の下、実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護日誌とは別に、スタッフ間で共有できる連絡帳にて、注意事項や連絡事項、プラン変更の取組みや新たな取組みに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の掛かりつけ医をお持ちの方には個別対応できる体制を整え、緊急時の対応も訪問看護ステーションとの連携によりスムーズな搬送や受診できる体制を整えている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を継続するが、月2回の往診があることの説明を受け、協力医に変更する家族がいる。職員が受診対応しており、家族対応時は連絡用紙にて、利用者状況を主治医に詳細に伝えている。受診結果は職員と家族で共有している。夜間緊急時は、訪問看護ステーションとの連携体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションからの週1回の訪問時に相談やアドバイスを共有できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状経過等の連絡は密に行っている。スタッフは他者受診の際や、事業主は定期的に病室を訪問しコミュニケーションを図り、担当看護職から経過状況等を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を作成しご家族へ渡している。訪問看護スタッフとも共有できている。	利用開始時に「利用者の重度化対策・終末期ケア対応指針」を基に説明し、書面で同意を得ている。利用者状況により、段階的に家族と十分に話し合い、意向確認を行っている。話し合いの内容は、記録として保存している。職員は、訪問看護師から終末期の心構えや対応等、指導を受け、共有して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災対応訓練時に、ダミー人形や訓練用AEDを用いて指導をうけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年二回の訓練を実施している。放火や漏電を除くと火元は限られるので、投げ込み式消火剤やてんぷら油消火スティックをキッチンへ設置。	消防署立会い・自主訓練、昼夜想定各々1回の火災訓練を実施している他、消防設備会社の協力を得て実際に火を起し訓練を行っている。職員は、訓練後にレポート提出し、火災を未然に防ぐ意識付けを行っている。災害時、地域住民に利用者の見守りを依頼しており、備蓄品、非常持ち出しを整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出し、個人情報保護を理解している。失禁時は周囲に気づかれないように、羞恥心に配慮した支援やドアノックなどプライバシーや人格を尊重した支援を心掛けている。個人情報の取り扱いについては、契約時に家族へ説明し同意の署名を得ているが、写真掲載は口頭のみである。	個人情報保護の観点から、写真掲載の家族の同意の署名を得られることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃よりスタッフと利用者様の会話を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	100%には届かないが、会話や表情等で希望を受け入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目で、衣替えをご家族と行っている。化粧液やクリーム、白髪染等の支援をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設にはメニュー表が無く、利用者様に伺いを立てて決めている。また、拒否が無い場合は簡単な下処理等のお手伝いをお願いしている。	献立は、1日20品目の食材を使うことを目指し、職員が前日に利用者の希望を聞き決めている。調理は、職員だけでなく代表が調理することが多い。利用者は野菜の下ごしらえや味見など、出来る部分を手伝っている。家族と外食へ行く利用者もいる。季節の行事食や誕生日はケーキで祝い、バイキング昼食会など楽しむ工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を五段階にわけ把握できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月／2回歯科医師の訪問受診を行っている。また、歯科医師からのアドバイスや助言を実践した支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の拒否や、止むを得ない場合を除き、オムツ外しを促進している。	日中はトイレでの座位排泄を基本としている。又、排泄チェック表を付け、利用者の排泄リズムを把握・共有し、声掛けや誘導を行っている。利用者の排泄状況を職員会議で検討するなど、職員は排泄の自立支援を理解し、改善に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材を使ったり、レク内にて運動や体操を取入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は決まっているが、個別の対応も行っている。また、入浴拒否が有る場合は、時間をずらし声掛けを行っている。	入浴は週3回を基本とし、利用者の気分や状態に応じて対応している。車椅子の利用者は足浴にシャワー浴、寝たきりの利用者は清拭を支援している。入浴剤や季節のしょうぶ湯など楽しむ工夫がある。入浴時は職員と利用者の1対1で会話も弾み、楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度や明るさには、利用者様の習慣等に合わせた対応ができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	独自の服薬管理シートや振り分けBOXを作り、誤薬がないように注意している。また、掛かりつけ医のアドバイスを受け、個別のバイタル管理表を用いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力(裁縫・調理・園芸)を十分に発揮して頂けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望があった場合や、近所の散歩を心掛けている。不定期だが、ドライブにも出かけている。	桜や菜の花の花見や鯉のぼり見物など、車椅子の利用者も一緒に季節を感じに出かけている。受診後に買い物に寄る利用者や家族と出かける利用者もいる。又、天気の良い日は車椅子の利用者も一緒に散歩に出たり、その日の気分でドライブに行っている。外気浴で気分転換をするなど外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行なえている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の生け花や、手作りカレンダーを、浴室ドアには入浴気分を出して頂ける様POPなどを使用している。	リビングには、職員手作りの季節の飾り物や利用者作成の月カレンダーがあり、季節感がある。利用者は海を眺めたり、レクリエーションに興じたり、職員と談笑したりと思いいに過ごしている。職員は、感染症対策で、温度・湿度管理に注力し、居心地よく生活できるよう整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思いいに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いてあり、団欒の場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居説明時に、なるべくならば新品を購入せず、使い慣れた家具や寝具を使用して頂ける様説明している。	リクライニングベッド、エアコン以外、寝具、筆筒、収納、椅子等は、従来使用の調度品を本人・家族と相談して備えている。家族の作品・写真を飾り、利用者の好きな居室に整えている。職員による毎朝の清掃と感染予防の空調管理で、病気を未然に防ぎ、快適に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室には目印になるものを設置している。		